さんないまるやま　つうしん

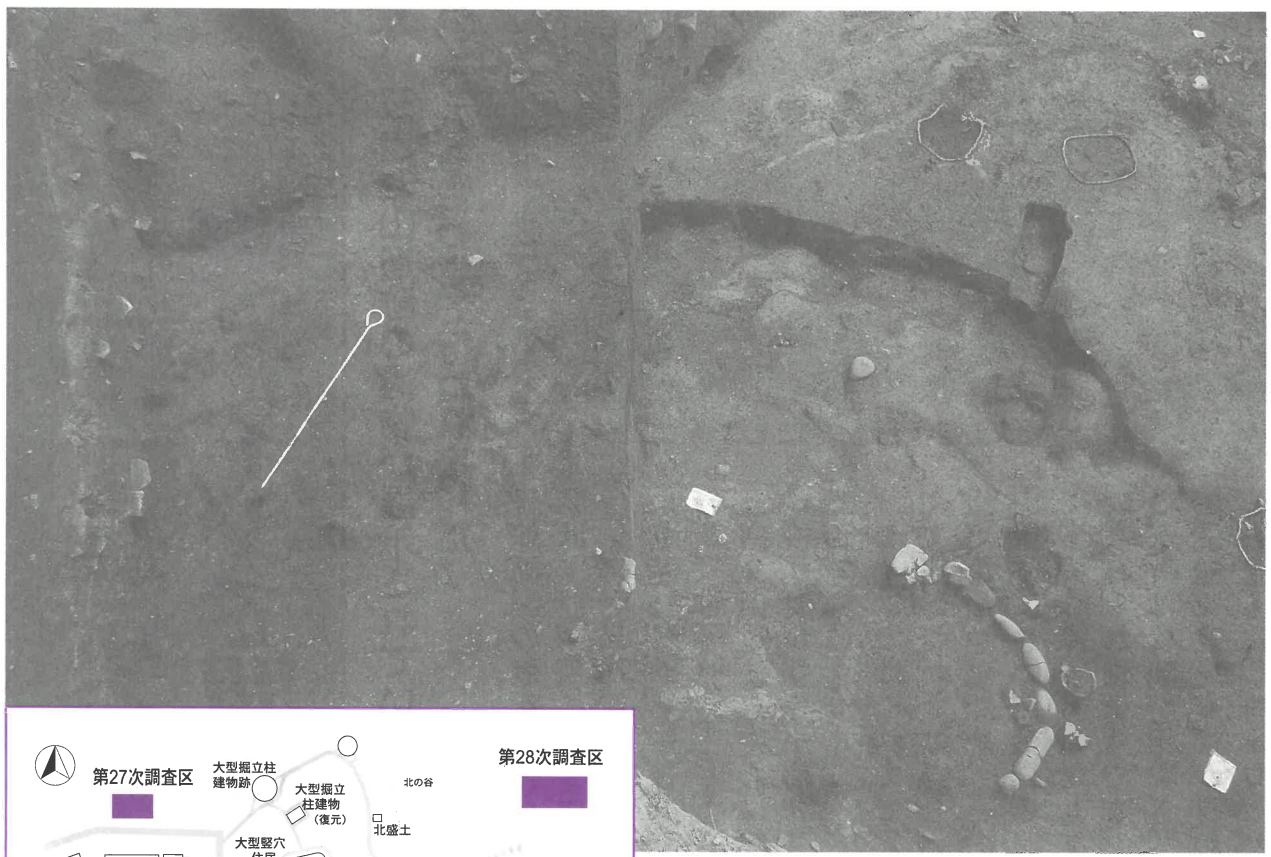
三内丸山通信

第35号
平成16年12月22日

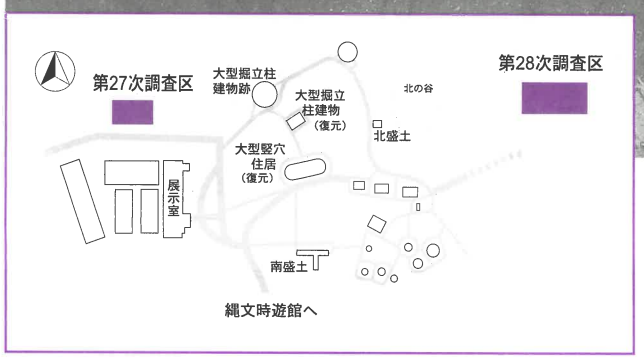
青森県教育庁文化財保護課
三内丸山遺跡対策室
〒030－8540　青森市新町2丁目3－1
ＴＥＬ　(017) 734－9924
ＦＡＸ　(017) 734－8280
三内丸山遺跡対策室　分室
〒038－0031　青森市三内字丸山293
ＴＥＬ　(017) 781－6078
ＦＡＸ　(017) 781－6103

平成16年度 発掘調査の成果

今年度は2つの地点（第27次・28次調査区）で発掘調査を行いました。その結果、木柱や焼けた住居跡が見つかるなど、新たな成果が得られました。



第27次調査区で見つかった焼失住居



発掘調査区の位置図

第27次調査

遺跡の北西端側斜面で調査を行いました。この場所では、これまで5回の調査が行われており、平成8年度と9年度の調査で、それぞれ1本ずつ木柱が見つかっています。平成12年度の調査では、この2本の木柱を取り上げて詳しく分析した結果、今から約4千7百年前のクリ材であることがわかりました。そのほかにも、たくさんの柱穴が見つかり、掘立柱の建物が建てられていたと考えられました。

今年度の調査では、2本の木柱と同じ建物の柱を見つける目的で調査を行いました。調査を進めたところ、たくさん見つかった柱穴のうち、1基で木柱が残っていることがわかりました。直径が約56cmあり、平成12年度に取り上げた2本の木柱と同じくらいの大きさがありました。この木柱についても年代を調べています。また、縄文時代中期末葉（約4千年前）の焼けた住居跡も見つかりました。木や土が焼けている状況が見られ、屋根が焼け落ちたものと考えられました。焼けた住居跡は三内丸山遺跡では例が少なく、どの様な屋根のかたちをしていたのか、来年度も調査を続けます。

第28次調査

集落北東の沖館川に面する台地の北側縁辺部で貯蔵穴を調査しました。周辺では、これまでの二度の調査で貯蔵穴がまとまって見つかっています。今年度は調査区の西側と中央部で新たに5基の土坑が見つかり、貯蔵穴は調査区西端と中央部の2か所にまとまっていることがわかりました。また、精査した内の1基は平面形が円形で、底が広がったフラスコ状の貯蔵穴であることがわかりました。調査区東側では縄文時代の地層が残っており、谷地形だったことがわかりましたが、縄文時代の遺構は確認されませんでした。

第28次調査区で見つかった貯蔵穴

三内丸山遺跡のご案内

遺跡の開園時間
9時～17時（11/1～3/31）
ただし、「遺跡内展示室」、「展示遺構」の公開時間は9時～16時30分

ボランティアガイド定時説明
1回目は9時15分から
その後は10時から1時間ごと
最終は15時30分から
（10/1～3/31）

交通手段
青森市営バス
JR青森駅から「免許センター行き」
三内丸山遺跡前で下車

園路は除雪を行っていますが、雪道を歩きやすい靴でおこし下さい。

海外縄文シンポジウム・展示会 ドイツで開催

ドイツのベルリン市で、三内丸山遺跡の遺物が展示されています。青森県が共催するシンポジウムも合わせて行われました。

展示会

日本の文化庁や国際交流基金などが主催する「曙光の時代―日本原始・古代展覧会―」が、ベルリン市のマルティン・グローピウス・バウで11月20日から1月31日までの日程で開催されています。

日本全国の代表的な考古資料を展示するもので、三内丸山遺跡からは大型板状土偶やヒスイなどが出展されています。

マルティン・グローピウス・バウ

出展された大型板状土偶（左）とヒスイ、コハク（右）

シンポジウム

展示会の開幕に合わせて、ライス・エンゲルホルヌ考古学民俗学博物館、青森県、会場となったベルリン日独センターの共催で、11月22日から24日の3日間、「日本考古学―日本原始古代の変革と継続―」と題したシンポジウムが開催されました。

ドイツ・日本・イギリスなどから考古学・東洋史学の研究者、約70人が参加し、日独両国の最新情報を基に発表・討論を交わしました。

シンポジウム2日目は午前9時15分から午後8時30分まで縄文時代をテーマに、三内丸山遺跡を中心に集落の移り変わり等が紹介されました。

ドイツではこれまで、縄文文化についての詳しい情報がなかったため、三内丸山遺跡についての発表はとても興味深いものとして受け入れられたようです。会場からは質問が相次ぎ、終始活発な意見交換が行われるとともに、ヨーロッパの研究者と交流を深めることができました。

シンポジウムのようす

三内丸山遺跡の印象について、発表者の一人であるザクセン・アンハルト州立先史博物館のハーラルト・メラ館長が「発掘を映画でも記録しているのはとてもよい事だ。遺跡は大きいが、学術的な処理もきちんとされている。調査情報をいち早く一般公開する姿勢もすばらしい」と語ってくれました。

入場者400万人達成

平成6年8月に公開を開始してからの見学者が、11月1日に400万人を突破しました。

縄文時遊館では、三内丸山遺跡マスコットキャラクター「さんまる」が出迎え、記念のセレモニーが行われました。400万人目の見学者である東京都の堀田千佳代さんには記念品や花束が贈られました。

企画展

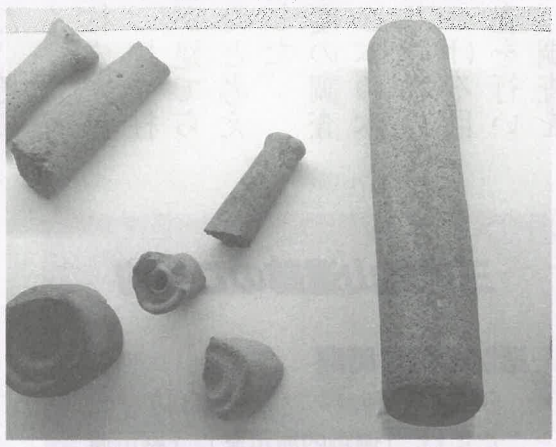
『祈りやまつりの道具 ―不思議な形の道具類―』

平成16年11月2日（火）～平成17年2月27日（日）

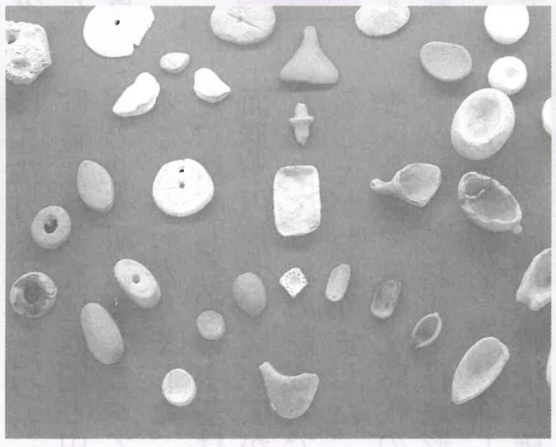
三内丸山遺跡からは、祈りやまつりに使われたと考えられる土製品や石製品が数多く出土しています。まつりの道具というと、土偶や岩偶など人の形をしたものが思い浮かびますが、石棒やミニチュア土器をはじめ多くの種類があります。常設展示ではスペースの関係から多くを紹介できませんので、今回の企画展では詳しく展示しています。

現代人の目からみると「不思議な形」としか表現できないものが多く、特に異形石器は名前のとおり人形、動物形、三日月形、突起がギザギザついた形など様々です。赤や白、黒など色つきの石材が多く使われ、人の目を引き付けますが、多くはお墓や、まつりの場とされる盛土遺構から見つかります。怪獣のゴジラに似たものも展示していますので、探しに来てください。

石棒については手にふれるコーナーも用意しています。ていねいに磨き込まれた石棒から、労力を惜しまずに作りあげた縄文人の真剣さにふれることができるでしょう。



石棒



様々な形の土製品・石製品